

総務省が 10 月 26 日に発表した「2010 年国勢調査確定値」で、10 年 10 月 1 日現在のわが国の人口が 1 億 2,805 万 7,352 人（男性 6,232 万 7,737 人、女性 6,572 万 9,615 人）となったことが分かった。05 年の前回調査に比べ 28 万 9,000 人（0.2%）増えたが、増加率は 1975 年の 7.0% から 7 回連続で減少した。

年齢別人口は、「15 歳未満」が 1,680 万 3,000 人（人口の 13.2%）、「15～64 歳」が 8,103 万 2,000 人（63.8%）、「65 歳以上」が 2,924 万 6,000 人（23.0%）。「15 歳未満」の割合は 1920 年の調査開始以来最低、「65 歳以上」の割合は最高となった。

都道府県別に見ると、人口が増えたのは東京・神奈川・千葉など 9 都府県で、38 道県は減少した。

世帯数は前回調査より 238 万 5,000 世帯（4.8%）増の 5,195 万 504 世帯。世帯数が 5,000 万世帯を超えたのは初めて。

世帯を種類別にみると、一般世帯が 5,184 万 2,000 世帯、施設等世帯（学校の寮や病院、福祉施設などに入所している世帯）が 251 万 2,000 世帯。一般世帯の 1 世帯当たり人員は 0.13 人減の 2.42 人となり、1975 年の 3.32 人以来、7 回連続で減少した。

また、世帯人員は「1 人世帯」が 1,678 万 5,000 世

帯（一般世帯の 32.4%）と最も多く、世帯人員が多くなるほど世帯数は少なくなる。65 歳以上の 1 人世帯は 479 万 1,000 世帯。65 歳以上男性の 11.1%、女性の 20.3% が一人暮らしだった。

調査では、わが国の人口のうち、日本人人口が前回調査より 37 万人（0.3%）減の 1 億 2,535 万 8,854 人に、外国人人口が 9 万 2,000 人（5.9%）増の 164 万 8,037 人になったことも分かった。国勢調査で日本人人口が減るのは、日本人と外国人を分けて集計した 1970 年調査以来初めてのことで、一方、外国人人口は過去最高だった。

外国人人口を国籍別にみると、中国が 46 万人（外国人人口の 27.9%）で最も多く、次いで韓国・朝鮮が 42 万 3,000 人（25.7%）、ブラジルが 15 万 3,000 人（9.3%）、フィリピンが 14 万 6,000 人（8.9%）の順となっている。

なお、今回の調査では、国籍が調査票に記入されていないなど国籍不詳の人が 105 万人いた。この中には日本人も含まれるとみられ、総務省は「今回の調査で日本人が減ったとは直ちに断定できない」と話している。

（福祉新聞・2550 号 2011 年 11 月 7 日）